

2020 年度グッドデザイン賞 分譲マンション「アネシア本山 THE GRAND RESIDENCE」が受賞

トヨタホーム株式会社（名古屋市東区泉一丁目 23 番 22 号、取締役社長 後藤裕司）が名古屋市千種区で建設した高級分譲マンション「アネシア本山 THE GRAND RESIDENCE」は、2020 年度のグッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞しました。「アネシア本山 THE GRAND RESIDENCE」は、今年 5 月に竣工した当社最高峰レジデンス。屋内廊下の壁を「耐力壁」とし、住戸間の戸境壁を「ウォールガーダー（梁内臓壁）式」（最上階を除く）とすることで梁や柱を限界までなくし、ゆとりと開放感に満ちた空間を実現。「住戸内に構造体がほとんど落ちてこないという骨格の質の高さを実現している」との評価をいただきました。

また、構造体には造船技術を応用して切り出した「鉄骨無垢柱」を用い、「造船産業とコラボレーションしている点も好感がもてる」との評価をいただきました。

トヨタホームは今後とも、住まいに関する幅広い分野で、優れたデザインを追求してまいります。



アネシア本山 THE GRAND RESIDENCE

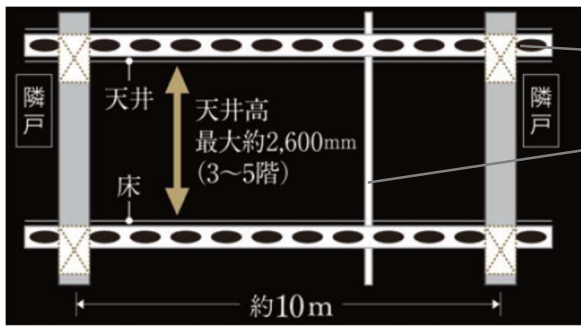


※おかげさまで創業 45 周年



《アネシア本山 THE GRAND RESIDENCE の特徴》

■「ウォールガーダー(梁内臓壁)式大空間壁構造」断面図



ボイドスラブ

鉄骨無垢柱

※構造概念図  = 梁

※1~2階は天井高最大約 2,450 mmとなります。

※タイプにより小梁が発生します。

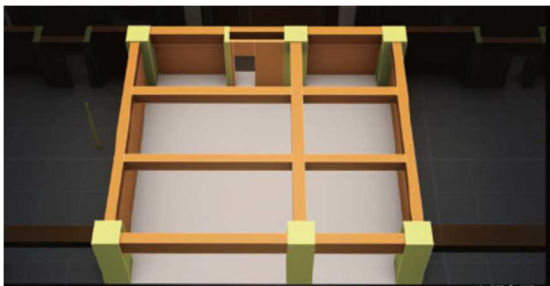
※掲載の図は建物北側正面から中住戸を見た場合の概念図です。



GOOD DESIGN
AWARD 2020

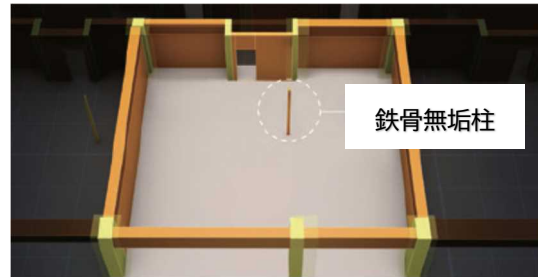
■一般工法との違い

一般的な板状型マンション構造例



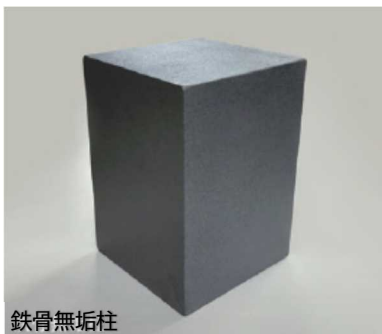
通常はラーメン構造によるシンプルな間取り設計で、800~1,000 mm角の柱が各住戸に6本程必要になり、住戸の真ん中に梁せい700 mm程度の梁が通る設計になる。

アネシア本山の構造



屋内廊下の両サイドの壁を構造体にし、鉄骨無垢柱とボイドスラブの組み合わせによって、余計な梁や柱が無く、ワイドスパンの大空間が可能となった。

■鉄骨無垢柱



鉄骨無垢柱



造船技術で狂いなく切り出した約 100 mm角の鉄骨無垢柱。鉄骨はコンクリートの 10 倍の圧縮強度がある。プランに影響のない壁に鉄骨無垢柱を内蔵し、約 10m×10mを超えるワイドスパンボイドスラブを支えることで、開放感に満ちた住空間を実現

【グッドデザイン賞講評】

「住宅の一つの理想として「完全に自由な間取り」というのがある。集合住宅で自由な間取りを考えるとまずネックになるのが、構造システムの制約である。本プロジェクトでは、ボイドスラブ+100 ミリ角の鉄骨の無垢の細い柱によって、上下階の静穏な音環境を保ちながら、かつ住戸内に構造体がほとんど落ちてこないという骨格の質の高さを実現している点が評価された。造船産業とコラボレーションしている点も好感がもてる。ぜひこれを集合住宅の普遍的なモデルに展開して行ってほしいところである。地下を入れて5層の構成をうまく解いている点も良いと思えたのだが、構造モデルの面白さをもっと前面に生かした外観デザインができれば、さらに普遍的なデザインとして展開していこう。」

以上